

戦争遺跡を調査して
いる人に案内され、婦
恋村役場の西方にある
山林に入った。農道か
ら斜面を少し下るとア
ーチ状のコンクリート
が見えた。「大前防空監視哨」
の遺構である。周辺は樹木が生
い茂るが、戦時中は眺望が開け、
浅間山がよく見えたという▼防
空監視哨は本土に飛来する米軍
機をいち早く察知するため全国
各地に設けられた。県内には約
40カ所。訓練を受けた青少年が

24時間体制で警戒に当たり、音
を聴き分けて敵機の機種や数を
通報した。終戦で役割を終え、
建物は取り壊されて大半が失わ
れた▼「県内に幾つ残っている
のか」。自分の目で確かめたいと
調査するのが山口一俊さん(71)
Ⅱ東吾妻町原町Ⅱだ。3年ほど
前から文献に当たり、図書館や
史料館の職員、戦時中を知る人
たちから話を聞き、報告書をま
とめている▼大前防空監視哨は
「婦恋村誌」に記述があるもの
の実態はよく分からなかった。

地元のお年寄りに絵を描いても
らったり、案内してもらったり
して埋もれた遺構をようやく確
認した▼山口さんは「任務に当
たった人から直接話を聞くこと
ができる時間は残りわずか。せ
めて遺構の調査や保存がかなえ
ば」と願う▼県内で文化財に指
定された監視哨跡はみどり市と
長野原町の2カ所のみで、存在
を知る人も少なくなった。終戦
から78年。戦争体験者が減る中、
戦禍の記憶をつなぐ戦争遺跡
を調べる意義は高まっている。